

西暦	和暦	夜間瀬川の砂防事業及び被害状況
1896	明治30年	砂防法制定
1906	明治39年	長野県が横湯川上流の落合地すべりの砂防工事に着手。
1910	明治43年 8月10日～15日	明治の後半に繰り返し水害が発生し、明治43年の大水害により落合地すべりの砂防施設は壊滅。
	明治43年10月	横湯川砂防工事中断。
1918	大正7年	国直轄砂防工事開始。
1932 (～1934)	昭和7年度 ～9年度	農村振興土木事業を契機に砂防事業が内務省から県へ移管され、県工事による砂防事業開始。 約3ヶ年で床固工・護岸工等を大幅に整備。
		上流崩壊地の直接工事及び砂防堰堤工事は遅れ、戦争による工事中断と森林伐採により、上流地域の崩壊が盛んとなる。昭和20年ごろまでは砂防堰堤に貯砂能力があった。
1950	昭和25年 8月5日	穂波温泉大水害 が発生。下流域でも堤防決壊が相次いだ。
1951	昭和26年	砂防工事再開。横湯川・角間川上流部および合流点の整備。夜間瀬橋まで流路工を延長施工。
1952 (～1955)	昭和27年 (～昭和30年)	越橋から上流の堤防嵩上げ工・護岸工・水制工・根継工を実施し、昭和30年に完成。
1958	昭和33年 9月18日	33年災害では金井で堤防が決壊し、夜間瀬川下流左岸側の広範囲で浸水被害。
1959	昭和34年 8月・9月	33年・34年共に流路工は出水時に極端な偏流を起こし、床固工郡の袖部で溢流。
1961	昭和36年 (～昭和48年)	長野電鉄湯田中線鉄橋～竹原和手地籍間で護岸嵩上げ工・水制工等を実施し、昭和48年に完成。
1963 (～1964)	昭和38年～39年	偏流への対応処置として「夜間瀬川流路工模型実験」が行われ、複断面流路工が計画される。
1963	昭和38年	角間川において複断面流路工を実施し、平成元年度に完成。
1965 (～1988)	昭和40年 (～昭和63年)	横湯川・角間川合流点～夜間瀬橋間で二次改築が実施され、昭和63年に完成。
1981	昭和56年 8月22日	台風15号により中野市では夜間瀬川で堤防が決壊し、昭和33年以来の洪水となった。
1986	昭和61年	台風15号により夜間瀬川の各地で堤防に損傷。長野電鉄木島線の鉄橋の橋脚が傾いた。
1992	平成4年	柳沢の折橋から上流740mに偏流防止の低水路副断面護岸工を実施し、平成11年に完成。
1995	平成7年	夜間瀬橋～木島線鉄橋間が追加砂防指定地となり、平成8年度より複断面方式で整備中。